

アール・ブリュットを通じた新しい日瑞交流のはじまり —国際フォーラム「社会・文化・イノベーションの日瑞対話」基調報告—

元・駐スウェーデン日本国特命全権大使 渡邊芳樹

日本とスウェーデンの外交関係が始まってから150周年の今年、スウェーデンで最も素晴らしい光溢れる6月に首都ストックホルム近郊において「アール・ブリュット—日本とスウェーデン展」(Art Brut Japan och Sverige)が開催されることは誠に意義深く喜ばしい限りであります。生の芸術と呼ばれるアール・ブリュット(伝語)の多くの作品が遠い日本から直接運ばれ展示されるこの企画は、私も関わらせて頂いて2015年に日本の専門家がスウェーデンに派遣され始まった交流に端を発するものです。同じ会場を区分してこれまで日本にも国際的にも余り知られてこなかったスウェーデンのアール・ブリュット作品があわせて展示される合同展でもあります。

アール・ブリュットは、障害の有無にかかわらず日常と独学の中で、即ちNon-ProfessionalでUntrainedのSelf-Taught Artistが無作為に自らの根源的表現衝動に基づいて制作する質の高い芸術であり、コンテンポラリー・アートの中でも最先端の一つとも言われています。それ故に近年欧州諸国や米国などで高い注目を浴びるようになってきています。また、中国や東南アジアでも注目されるようになってきました。日本の作品の国際的展示会も2008年以来スイス、フランス、英国その他で多くの観客を集め好評のうちに開催が続いています。今回の企画は、過去3年間の模索と準備を経て、北欧で初めて開催される日本のアール・ブリュット展です。

典型的なアール・ブリュット作品は、欧州ではかつての隔離型精神病院で長く入院を余儀なくされた患者の入院生活の中で生まれ、後日多くは死後に発掘され保管されてきましたが、日本では事情が異なります。日本では知的障害者や精神障害者が福祉や教育のサービスを利用しながら現に生活している地域や施設の中から自然に生まれ、支援員たちにより発掘され保管されてきました。

今日の日本では、国会でも国や地方の行政でも注目され関連する支援方策が厚みを増しています。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラムの中でも役割が期待されています。障害者の有無にかかわらず文化芸術を推進する特別な法律も新たに制定されようとしています。

(注) 平成30年の通常国会において、障害者による文化芸術活動の推進に関する法律案が同年6月7日衆議院本会議で可決成立の見込み。

また、日本ではヴェネチア・ビエンナーレ2013で取り上げられた澤田真一の他にも今回スウェーデンに来ているスズキマリエの作品など世界的に注目を浴びる作品・作家も数多く生まれています。

スウェーデンでも、かつての大型隔離型精神病棟の廃止の中から入院患者たちの優れた作品が発掘、整理、保管されてきたこと、新しい精神医療の中でも芸術創作活動をあらためて位置づける動きがあること、1990年代からの新しい制度LSSに基づき知的障害者等のアトリエにおける芸術創作支援も強化されてきたことを承知しています。

私は、日本とスウェーデン両国の長い友好関係の中で学び合い交流してきた医療・福祉・教育の土壌の中で育った芸術であるアール・ブリュットを通じて新しい文化交流の始まりを発見できると信じるものです。

また、今回の企画を契機にその先に繋がること、すなわちスウェーデン国内各地の作品と専門家のネットワーキングが促進され、日本として優れたスウェーデン作品の国外展開に貢献できれば存外の喜びです。

最後にひとつお知らせがあります。そうした将来に向けた両国の文化芸術交流の発展の一助とするべく、スウェーデンのアール・ブリュットに関する本を私自身と同僚のアートディレクター小林瑞恵氏の共著により出版する予定です。既にスウェーデンの専門家たちの協力を得てきました。日本において、スウェーデンの30人に上る作家の作品を収録し英語と日本語で解説を加え、また様々な角度から(日本語ですが)考察を加え専門家を交えた対談・鼎談を入れた新しい本を、この夏の終わりまでに出版する目途が立ってきました。

本のタイトルは「スウェーデンのアール・ブリュット発掘—日常と独学の創造価値—」(Findings of Art Brut in Sweden~Creativity of Unintentional Arts in Daily Life produced by Self-Taught Artists~) というものです。平凡社から出版予定です。このことを最後にお知らせして発言を終えたいと思います。